

## 第65回「ハートミーティング」意見交換の内容について

「健康長寿のまち・京都推進本部 若手職員検討チーム」のメンバー

---

### ★市長からのコメント

- 企画した取組の、「主語」が何になっているか今一度、考えてみてほしい。取組の「主語」は、市役所や市職員ではなく、市民の皆様でなくてはならない。市民の皆様が「自分事」、「みんな事」としてとらえられる企画かどうかという視点を大事にしてほしい。
- 職員は、「みんな事」のまちづくりを目指して、見えないプロデューサーとして、市民の皆様の心に火をつけ、主体的に動いていただくきっかけや仕組みを作っていただきたい。
- 市民の皆様へ取組をお知らせするだけでなく、健康づくりのため、職員自ら率先し、実践していただきたい。そうして取組の輪が広がった時に、街や社会が変わると思う。
- 学生の健康について考える機会を創出するために、大学に出張し、食育や歯科保健の啓発を実施するというアイデアは、「大学のまち京都」らしく、おもしろい。
- どの取組も良く考えられた素晴らしいアイデアで、大変感心した。是非とも実現したい提案だ。

★参加メンバーからの主な声

- 健康づくりは生活と密接に関わるものですが、市民の方々に、いかに「自分事」として着目してもらえるかという視点をもつことの重要性を改めて実感しました。
- 事業を考えていく上で、自然と自分目線、行政目線になっていましたが、市民目線を1番に考慮しなければいけなかったと改めて思いました。今後も仕事を進めて行く中で今一度市民目線について考え、市民サービスに努めたいと思います。
- 市長がどのような市役所を目指しているのかを伺うことができ、改めて市職員として自覚や職務に携わる者としての役割について考えることができました。単なる“報告”だけでなく“交流”の時間もいただき、本当に貴重な経験となったと感じています。
- 自分の考えや意見が直接、組織のトップである市長に届くのがハートミーティングの良いところだと感じました。限られた時間の中で、市長の考えや意見、人柄まで感じることができ、良い経験になりました。
- 企画に結び付ける難しさ、他部署の方と一緒にまとめあげることの大変さを感じながらも、若手検討チームでの作業は、とても楽しく刺激を受ける日々でした。様々な部署の方とそれぞれの業務経験や価値観をもとに話し合いを進めることで、健康づくりに関する自分の考えを深める機会にもなりました。今後の健康づくり業務に活かせるよう一層努力していきたいと思っています。